

高周波アブレーションと植込み型機器システム

ペースメーカーや除細動器使用患者に RF アブレーションを用いる場合における干渉発生の可能性をプログラミングにより軽減または干渉を最小限に抑える方法を以下に掲載します。

製品	発生可能性のある干渉	プログラミングによる軽減方法
ICD および CRT-D	<ul style="list-style-type: none"> 非同期ペーシング ペーシングの抑制 不適切なショック療法 ペーシング閾値の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 頻脈治療の停止。 <ul style="list-style-type: none"> 機器の Tachy Mode のプログラムに Electrocautery Protection Mode、または Off-Electrocautery があれば切り替えます。このモードでは頻脈性の検出や治療機能が停止し、ペーシングモードは VOO、AOO、DOO モードのいずれかに切り替わります。 または 機器の Tachy Mode のプログラムを Off に切り替えるか、<u>または</u>機器上にマグネットを置いて一時的に頻脈治療を抑制または停止します。^a 徐脈ペーシングモードはプログラムされた状態が維持されます。
ペースメーカー/CRT-P	<ul style="list-style-type: none"> 非同期ペーシング ペーシングの抑制 ペースメーカーのリセット 最大トラッキングレート (MTR) までの心室ペーシング ペーシング閾値の変化 	<ul style="list-style-type: none"> マグネットを機器上に置き、マグネットレートで非同期ペーシングにします。^b または 装置を非同期モードにプログラムします (VOO/AOO/DOO)。

^aマグネットが使用できるかは、利用している機器の特性や機器のプログラミングによって異なります。詳細については、「A Closer Look」の「Using a Magnet to Suspend or Deactivate Tachy Therapy in ICDs and CRT-Ds (ボストン・サイエンティフィック製 ICD や CRT-D にマグネットを使って頻脈治療を抑制または停止)」および「Programming a Boston Scientific Defibrillator to Inhibit Tachy Therapy Using a Magnet (ボストン・サイエンティフィック社の ICD や CRT-D でマグネットを使用して頻脈治療を抑制する)」をご参照ください。
^b次の Intermedics 製ペースメーカーは、64 ペーシングサイクルのみマグネットモードのままとなります。COSMOS、DART、DASH、GALAXY、MARATHON、MOMENTUM[®]、NOVA、QUANTUM[®] II/III、RELAY、STRIDE[®]、UPRIMA、UNITY

背景情報

高周波 (RF) アブレーションは低侵襲治療で、医師が少量の RF 電流を用いて、身体の組織部位を選択的に損傷、破壊するものです。RF アブレーションは、不整脈、慢性疼痛、良性・癌性腫瘍などの治療によく用いられます。

RFアブレーション機器によって発生する高周波シグナルは、植込み型ペースメーカーや除細動器に干渉する可能性があります。本書では、RFアブレーションと、ボストン・サイエンティフィック製植込み型ペースメーカーや除細動器との間の干渉発生の可能性について説明し、干渉発生の可能性を最小限に抑える方法をご紹介します。

ICD: 植込み型除細動器
 CRT-D: 除細動機能付植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ
 CRT-P: 心再同期治療ペースメーカー

対象 CRM 製品 *

ICD、CRT-D、CRT-P、ペースメーカーシステムすべて

* 本書に参照されている製品の中には、地域によっては認可されていないものもあります。製品動作の詳細な情報については、それぞれの製品ラベル表示をご参照ください。

CRM お問い合わせ先

テクニカルサービス — 米国
 1.800.CARDIAC (227.3422)
Tech.Services@bsci.com

テクニカルサービス — ヨーロッパ
 +32 2 416 7222
eurtechservice@bsci.com

LATITUDE クリニシャンサポート
 1.800.CARDIAC (227.3422)
latitude@bsci.com

ペーシェントサービス
 1.866.484.3268 - 米国およびカナダからの場合
 001.651.582.4000 - 米国以外からの場合

RF アブレーションの使用上の注意:

- ▶ ペースメーカー本体を RF アブレーション使用に向けて適切に準備/設定してください (表参照)。
- ▶ 患者をモニターし、一時的ペーシング機器、外部除細動器の準備、知識のある医療従事者の立会いを手配してください。
- ▶ アブレーションカテーテルと、植込み型機器やリードとの直接接触を回避してください。
- ▶ 電流経路 (電極の先端から接地板まで) は植込み型装置やリードからできる限り離れた状態を維持してください。
- ▶ ペースメーカー依存患者の場合は、外部ペーシングによるサポート (体内または体外式によるサポート方法) を検討してください。
- ▶ アブレーション前後のセンシング閾値、ペーシング閾値、インピーダンスの測定値を比較してリードの完全性を検証してください。
- ▶ プログラミングを変更した場合は、処置後にパルスジェネレータの再設定を行い、必要な設定に戻してください。ICD および CRT-D では Tachy Mode を必ず再開してください。